

構造を賦与するとともに、厚生経済学のうちで社会的な価値判断に属すべき部分と客観的な経済分析に属すべき部分とを明確に峻別して、厚生経済学の科学的地位を確立しようとしたのである。それはピグーの《旧》厚生経済学を撃沈したロビンズの批判に対する標準的な解答として、現在でも主流派を自認する多くの人々が暗黙のうちに受け入れている正統的な考え方に他ならない⁴。ピグーによる《旧》厚生経済学の創始以来、新たな建設の足場が未だ取り去られてもいない段階で早くも建物の構造的欠陥が暴露されるという悲劇に見舞われ続けてきた厚生経済学だが、これでようやく科学的な分析の枠組みを獲得したかに思われたのである。

■ 《新》厚生経済学とアローの定理

《新》厚生経済学の社会的厚生関数アプローチは、確かにエレガントではあるが内容空虚であることを暴露して、《新》厚生経済学への社会的厚生関数アプローチの理論的基礎に対して深刻な問題提起を行った衝撃的な成果こそ、ケネス・アローの一般可能性定理だった。社会的な評価ないし判断の基準の起源・背景・生成を一挙に経済学の外部に放逐したバークソンとサミュエルソンの考え方とは正面から対立して、アローは社会を構成する人々が表明する個人的選好評価を集約して社会的厚生評価を形成する集計ルールを厚生経済学の正統性をもつ析対象として位置付けて、民主的で情報効率的な集計ルールの存在可能性という全く新しい問題を提起した。この問題を自ら攻撃したアローが持ち帰った戦果こそ、適格な集計ルールは論理的に存在しないという衝撃的な一般可能性定理だったのである。

アローの定理によれば、補償原理アプローチのみならず社会的厚生関数アプローチによっても、論理的に整合的な《新》厚生経済学を建設することは実際には不可能な試みであることになってしまう。《新》厚生経済学の唱道者たちが一斉にアローの社会的選択の理論に対して激烈な批判を浴びせたのは、ある意味ではまことに当然のことだったのである。このような批判の典型的な一例は、サミュエルソン [Samuelson (1967, p.429)] による以下の批判である：

・・・アローの定理は、伝統的な厚生経済学の数理理論に対する貢献であるというよりは、数理政治学 (mathematical politics) の未発達な教義に対する貢献であるというべきである。私はアローを経済学から政治学に輸出したい。というのは、私は・・・アローが経済学の伝統的なバークソン厚生関数の不可

能性を証明したとは信じていないからである。

だが、アローの定理を巡る多くの論争のなかでもおそらく最も興味に乏しい論争は、一般不可能性定理は伝統的な厚生経済学に属する貢献なのか、それとも新たに誕生しつつある数理政治学に属する貢献なのかというように、恣意的に引かれた学問の境界線を巡る論争なのではあるまいか。また、表面的には確かに厚生経済学の理論的可能性に対して非常に否定的な響きを伴うアローの定理ではあるが、実りある厚生経済学の構築のためには乗り越える必要がある障害をこのうえなく明瞭に確認したという意味で、それはむしろ積極的な意義を担う命題なのだと考えることにも意味がある。アロー以降の厚生経済学者の研究課題は、彼が一般不可能性定理を通して確認した障害を直視して厚生経済学に新鮮な生命を吹き込むために、新たな理論的基礎を求めることに設定されたのだというべきなのである。次章では、厚生経済学の新たな軌道を発見するために、伝統的な厚生経済学の情動的基礎を批判的に振り返ってみることにしたい。

- ④ 一層の研究のために（１）：厚生経済学の道具箱
- ⑤ 一層の研究のために（２）：補償原理の論理的性能

第 3 章 脚注

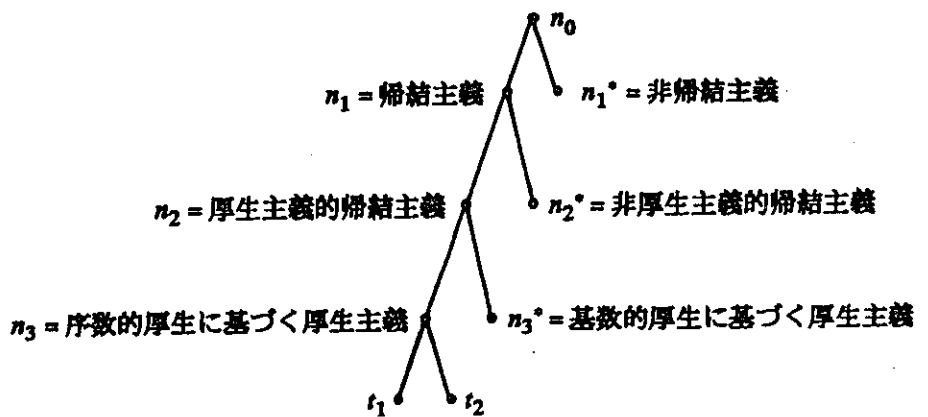
1
2
3
4
5
6
7
8

第4章：帰結主義と厚生主義

■ 社会的厚生判断の情報的基礎

社会的選択の理論と厚生経済学の歴史は紆余曲折に満ちている。自然権思想の擁護者コンドルセと功利主義思想の唱道者ベンサムを始祖として誕生しつつ、ピグーによる【旧】厚生経済学の創業宣言、ロビンズ、ヒックス、カルドア、バーグソン、サミュエルソンによる【旧】厚生経済学の破壊と【新】厚生経済学の建設、アローによる【新】厚生経済学の基礎への批判を経る過程で、社会的選択の理論と厚生経済学は、自然権思想と功利主義思想のいずれとも殆ど無縁な境地に辿り着いたのである。この事実を確認するために、社会的厚生判断の情報的基礎を振り返って、われわれはどのような情報に基づいて判断を形成しているのかを尋ねてみることにする。多少入り組んだ議論になるが、読者は以下の樹状図を参照しつつ、議論の大筋を辿って戴きたい。

図1：社会的厚生判断の情報的基礎



t_1 = 個人間比較不可能な序数的厚生に基づく厚生主義； t_2 = 個人間比較可能な序数的厚生に基づく厚生主義。【新】厚生経済学とアローの社会的選択の理論の情報的基礎は、端点 t_1 に対応している。

■ 帰結主義と非帰結主義

経済政策を実行すればなんらかの結果——帰結——が従うことは当然である。政策の是非を判定する際に、帰結さえよければ全て善しとして帰結以外の情報を考慮の外に置く考え方は、帰結主義と呼ばれている。これに対して、帰結の重要性を無視するわけではないもでも、帰結をもたらす手続きの適否や、帰結の背後にある潜在的な選択機会の重要性にも配慮して、広範な情報的基礎に立って政策の是非を判断する考え方を、非帰結主義と総称したい。

社会的厚生判断の情報的基礎に関する樹状図のこの最初の分岐点において、ベンサムとコンドルセはすでに袂を分かっていることに注意してほしい。政策の帰結が最大多数の最大幸福をもたらすことを判断の唯一の基準と考えたベンサムは、間違いなく帰結主義の考え方を採用していた。これに対して、たとえ他の面では望ましい帰結を生み出す政策でも、実施過程で不可侵な自然権と抵触する場合には断固としてこれを拒絶するコンドルセの政策思想は、非帰結主義の立場に依拠するものと考えざるを得ないからである。

明らかに、【新】【旧】を問わず伝統的な厚生経済学とアローの社会的選択の理論は、他の点では深刻な対立を含みつつ、ベンサムに先導されて帰結主義的な情報的基礎を採用した点では完全に軌を一にしていたというべきである。

■ 厚生主義的帰結主義

同じく帰結主義の立場に依拠するにせよ、政策の帰結を社会的厚生評価の観点から認識する方法は様々である。政策の帰結を分配の公平性に焦点を合わせて評価する場合でも、政策の帰結として得られる所得や富のローレンツ曲線やジニ係数を計測するこのによって帰結の実態を認識することもできるが、政策の帰結として人々が得る厚生という鏡に写して帰結の実態を個人的な評価を経由して認識することもできる。後者のように、帰結の認識を人々の厚生というフィルターを通過する情報に限定して基礎付ける考え方は、厚生主義的帰結主義——もっと簡潔には厚生主義——と呼ばれている。これに対して、帰結から得られる個人的厚生を無視しないまでも、帰結を認識する際に厚生以外の情報にも注意を払って広義の帰結主義的判断の情報的基礎を構築する考え方を、非厚生主義的帰結主義と総称したい。

帰結主義の内部のこの分岐点に立って眺めれば、功利主義の政策思想の情報的基礎は、明らかに厚生主義の系譜の典型的な一例である。【新】【旧】の厚生経済

学とアローの社会的選択の理論の情報的基礎も、ベンサムに倣って厚生主義の考え方に求められていた。だが、【新】厚生経済学とアローの社会的選択の理論が、ベンサムの功利主義的政策思想やピグーの【旧】厚生経済学と歩調を合わせたのは、樹状図のこの第2の分岐点に到るまでのことだった。ロビンズに先導された【新】厚生経済学の論者達は、ベンサムとピグーの厚生概念の基数性と個人間比較可能性を退けて、厚生主義の内部で厚生の序数性と個人間比較不可能性を前提とする枝に進んだからである。また、【新】厚生経済学の論理的基礎を内在的に検討するために、アローの社会的選択の理論も同じ枝に進み、彼の【新】厚生経済学批判を一般不可能性定理という鋭利な形式にまで突き詰めたのである。

第5章：厚生主義のなにが問題か

■厚生主義からの離脱宣言

経済政策の是非を社会的に判断する場合に、その政策の【帰結】から社会を構成する人々が享受する【厚生】を判断の情動的基礎とすることは、ある意味ではまことに自然である。それだけに、政策判断の厚生主義的基礎を問題視する経済学者は、厚生というフィルターを通して帰結を評価する立場のなにが問題なのかという点を、十分明らかにする義務を負っている。実のところ、政策判断の厚生主義的基礎からの離脱を最初に宣言した経済学者は、まぎれもなく厚生主義的な情動的基礎に立脚する【新】厚生経済学の誕生に、大きく貢献したジョン・ヒックスだった。まず、ヒックスの厚生主義批判の根拠を吟味することから、社会的選択の情動的基礎の批判的検討を開始することにしたい。

アーサー・ピグーが彼の【旧】厚生経済学の出発点とした【社会厚生】の概念は著しく包括的であって、およそ思慮あるひとならば価値を承認する筈の、すべてのものを含んでいた。だが、経済学者が関心を寄せるべきは社会厚生ではなく、直接的又は間接的に貨幣という測定尺度と関連付けられるその一部分——【経済厚生】——であるというのが、ピグーによって採用された立場だった。古典的名著『価値と資本』（1939年）で序数主義的な新古典派経済学の頂点を極めたジョン・ヒックスは、20年後に出版された時論的論文集『世界経済論』（1959年）の序文において、経済厚生を社会厚生から分離して、ひとびとの経済生活の目的は経済厚生を最大化にあると見做すピグーの【旧】厚生経済学の基本的な立場に対して【経済厚生主義】という名称を付与したうえで、この立場からの離脱を明確に宣言したのである。

ヒックスの離脱宣言の主旨は簡潔・明瞭である。厚生主義者のいわゆる非経済的側面をもたない政策提言を行うことは、実際には不可能である。それだけに、経済学者が政策勧告を行う場合には、彼はその政策のあらゆる側面に対して全面的に責任があることを承認すべきである。別の表現をすれば、経済政策の社会的評価に際して、経済学者は【厚生】という特殊なフィルターによって考慮に取り入れるべき情報を恣意的に篩い分ける慣行に安住して、厚生主義的な判断・評価に自己の課題を限定すべきではない。帰結の非厚生主義的な特徴や、帰結をもたらす社会的手続きとか、最終的な帰結の背後にあって選択される機会があった選択肢など、より

広い情報的基礎を活用して政策のあらゆる側面を考慮に取り入れる慎慮的な評価・判断を形成することこそ、責任ある経済学者が引き受けるべき任務なのである。

■ 厚生主義に対する事例含意的な批判

ヒックスによる厚生主義からの離脱宣言は、若くして極めた正統派経済学の頂点で安眠を食むどころか、自らが建設に寄与した厚生経済学の情報的基礎を完膚なきまでに批判するとともに、経済政策論のあるべき姿を真摯に探究した思索の記録として、いまでも新鮮で衝撃的なインパクトをもっている。だが、厚生主義の致命的な欠陥を指摘するとともに、非厚生主義的、非帰結主義的な厚生経済学の基礎を構築する作業に関しては、ヒックスは多くの果実をもたらしたとは言えそうにない。厚生主義批判と非厚生主義的な厚生経済学の基礎構築の双方に先駆者的・指導者的な役割を果たしたのは、現代の経済学者・倫理学者アマルティア・センだった。センが提起した厚生主義批判の要諦を、(1) 厚生というフィルターを通過する情報だけに依拠する政策判断には、致命的な歪みが含まれる可能性があるという事実の指摘（厚生主義に対する【事例含意】的な批判）、(2) 厚生主義的原理と非厚生主義的原理との間の不可避的な論理的衝突の指摘（厚生主義に対する【原理対立】的な批判）に分けて、簡潔に説明することにしたい。

センの小著『福祉の経済学——財と潜在能力——』は、彼が建設途上にある新たな福祉の経済学（潜在能力アプローチ）の基礎を述べた魅力的な講義録である。本書においてセンは、ベンサムに発端する功利主義者に対して、ひとの福祉を【富裕】（物質的な豊かさ）と同一視するアプローチが犯しがちな誤り——人間を疎外した財貨崇拜的な誤り——を免れている点において、好意的な評価を惜しまない。だが、同時にセンは、ひとの福祉に関する判断の情報的基礎を専ら彼／彼女の主観的満足の指標——【効用】ないし【厚生】——に求める功利主義者の視野の狭さにたいしては、この指標が含む危険性を指摘して警鐘を乱打するのである：

われわれが敢えて欲するもの、またそれを得られないときわれわれが痛みを覚えるものは、「実現可能性」や「現実的な見通し」をどう考えるかによって影響される。われわれが実際に獲得するもの、また入手することを無理なく期待できるものに対して示す心理的な反応は、往々にして厳しい現実への妥協を含んでいる。極貧から施しを求める境遇に落ちたもの、かろうじて生延びてはい

るものの身を守るすべのない土地なし労働者、昼夜暇なく働き詰めで過労の召使い、抑圧と隷従に馴れその役割と運命に妥協している妻、こういった人々はすべてそれぞれの苦境を甘受するようになりがちである。かれらの窮状は平穩無事に生延びるために必要な忍耐力によって抑制され覆い隠されて、（欲望充足と幸福に反映される）効用のものさしにはその姿を現さないのである。

センがここでの的確に例証しているように、福祉評価の情動的基礎としてみるとき、【効用】には致命的な欠陥がある。環境に適応して修正・制御された【効用】情報に依拠して福祉に関する社会的判断を形成すれば、人間生活の改善の道具を鍛える筈の厚生経済学は、その志に反して制圧や隷従のシステムを事後的に合理化する可能性を含むことになるからである。

厚生主義に対する事例含意的な批判は、セン以外にも法哲学者、政治哲学者ロナルド・ドウォーキン、政治哲学者ジョン・エルスターなどによって、様々な形で提起されている。いまやわれわれは、この批判から目を逸らすことが許されない状況にあるというべきである。

参照文献

- Arrow, K. J. (1951): *Social Choice and Individual Values*, New York: Wiley; 2nd ed., 1963 (長名寛明訳『社会的選択と個人的評価』日本経済新聞社、1977年)。
- Arrow, K. J. (1977): "Extended Sympathy and the Possibility of Social Choice", *American Economic Review: Papers and Proceedings*, Vol.67, pp.219-25.
- Arrow, K. J. (1987): "Arrow's Theorem", in Eatwell, J., Milgate, M. and P. Newman, eds., *The New Palgrave: A Dictionary of Economics*, Vol.1, London: Macmillan, pp.124-126.
- Arrow, K. J., Sen, A. K. and K. Suzumura, eds. (1996/1997): *Social Choice Re-examined*, London: Macmillan, 2 vols.
- Arrow, K. J., Sen, A. K. and K. Suzumura, eds. (2002): *Handbook of Social Choice and Welfare*, Amsterdam: North-Holland, Vol. I.
- Atkinson, A. B. (1970): "On the Measurement of Inequality", *Journal of Economic Theory*, Vol.2, pp.244-263.
- Atkinson, A. B. (1995): *Public Economics in Action: The Basic Income/Flat Tax Proposal*, Oxford: Clarendon Press.
- Atkinson, A. B. (2001): "The Strange Disappearance of Welfare Economics", *Kiklos*, Vol.54, pp.193-206.
- Atkinson, A. B. and J. E. Stiglitz (1980): *Lectures on Public Economics*, New York: McGraw-Hill.
- Basu, K. (1987): "Achievements, Capabilities and the Concept of Well-Being", *Social Choice and Welfare*, Vol.4, pp.69-76.
- Bergson, A. (1938): "A Reformulation of Certain Aspects of Welfare Economics", *Quarterly Journal of Economics*, Vol.52, pp.310-334.
- Bergson, A. (1954): "On the Concept of Social Welfare", *Quarterly Journal of Economics*, Vol.68, pp.233-252.
- Bergson, A. (1976): "Social Choice and Welfare Economics under Representative Government", *Journal of Public Economics*, Vol.6, pp.171-190.
- Berlin, I. (1969): *Four Essays on Liberty*, Oxford: Clarendon Press (小川晃一・小池・福田歆一・生松敬三訳『自由論』みすず書房、1971年)。
- Black, D. (1948): "On the Rationale of Group Decision-Making", *Journal of Political Economy*, Vol.56, pp.23-34.
- Black, D. (1958): *The Theory of Committees and Elections*, Cambridge: Cambridge University Press.

- Blair, D., Bordes, G., Kelly, J. S. and K. Suzumura (1976): "Impossibility Theorems without Collective Rationality", *Journal of Economic Theory*, Vol.13, pp.361-379.
- Blau, J. H. (1957): "The Existence of Social Welfare Functions", *Econometrica*, Vol.25, pp.302-313.
- Boadway, R. W. and N. Bruce (1984): *Welfare Economics*, Oxford: Basil Blackwell.
- Broome, J. (1999): *Ethics out of Economics*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Brosio, G. and H. M. Hochman, eds. (1999): *Economic Justice, The International Library of Critical Writings in Economics*, 2 vols., Cheltenham: Edward Elgar.
- Buchanan, J. M. (1954a): "Social Choice, Democracy, and Free Markets", *Journal of Political Economy*, Vol.62, pp.114-123.
- Buchanan, J. M. (1954b): "Individual Choice in Voting and the Market", *Journal of Political Economy*, Vol.62, pp.334-343.
- Chipman, J. S. and J. C. Moore (1978): "The New Welfare Economics 1939-1974", *International Economic Review*, Vol.19, pp.547-584.
- Collard, D. (1996): "Pigou and Future Generations: A Cambridge Tradition", *Cambridge Journal of Economics*, Vol.20, pp.585-597.
- Corchón, L. C. (1996): *The Theory of Implementation of Socially Optimal Decisions in Economics*, London: Macmillan.
- Cornes, R. and T. Sandler (1986): *The Theory of Externalities, Public Goods, and Club Goods*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Cowen, T., ed. (1992): *Public Goods and Market Failures: A Critical Examination*, New Brunswick: Transaction Publishers.
- Creedy, J. (1999): *Economic Welfare: Concepts and Measurement, The International Library of Critical Writings in Economics*, 2 vols., Cheltenham: Edward Elgar.
- d'Aspremont, C. and L. Gevers (1977): "Equity and the Informational Basis of Collective Choice", *Review of Economic Studies*, Vol.44, pp.199-209.
- Dasgupta, P. (1993): *An Inquiry into Well-Being and Destitution*, Oxford: Clarendon Press.
- Dinwiddy, J. R. (1989): *Bentham*, Oxford: Oxford University Press (永井義雄・近藤加代子訳『ベンサム』日本経済評論社、1993年)。
- Dummett, M. (1984): *Voting Procedures*, Oxford: Clarendon Press.
- Dworkin, R. (1981a): "What is Equality? Part 1: Equality of Welfare", *Philosophy & Public Affairs*, Vol.10, pp.185-246.
- Dworkin, R. (1981b): "What is Equality? Part 2: Equality of Resources", *Philosophy & Public Affairs*, Vol.10, pp.283-345.
- Dworkin, R. (2000): *Sovereign Virtue: The Theory and Practice of Equality*, Cambridge, Mass.: Harvard University Press.

- Elster, J. (1983): *Sour Grapes: Studies in the Subversion of Rationality*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Feldman, A. M. (1980): *Welfare Economics and Social Choice Theory*, Norwell, Mass.: Kluwer Academic Publishers (佐藤隆三・川島泰男訳『厚生経済学と社会的選択論』マグローヒルブック、1984年).
- Fishburn, P. C. (1973): *The Theory of Social Choice*, Princeton, New Jersey: Princeton University Press.
- Foley (1967): "Resource Allocation and the Public Sector", *Yale Economic Essays*, Vol.7, pp.45-98.
- Friedman, M. (1962): *Capitalism and Freedom*, Chicago: University of Chicago Press (熊谷尚夫・西山千明・白井孝昌訳『資本主義と自由』マグローヒル好学社、1975年).
- Gaertner, W., Pattanaik, P. K. and K. Suzumura (1992): "Individual Rights Revisited", *Economica*, Vol.59, pp.161-177.
- Gärdenfors, P. (1981): "Rights, Games and Social Choice", *Noûs*, Vol.15, pp.341-356.
- Gibbard A. (1974): "A Pareto Consistent Libertarian Claim", *Journal of Economic Theory*, Vol.7, pp.388-410.
- Gibbard, A. (1982): "Rights and the Theory of Social Choice", in Cohen, L. J., Los, J., Pfeifer, H. and K.-P. Podewski, eds., *Logic, Methodology and Philosophy of Science*, Amsterdam: North Holland, pp.595-605.
- Graaff, J. de V. (1957): *Theoretical Welfare Economics*, Cambridge: Cambridge University Press (南部鶴彦・前原金一訳『現代厚生経済学』創文社、1973年).
- Green, J. R. and J.-J. Laffont (1979): *Incentives in Public Decision-Making*, Amsterdam: North-Holland.
- Griffin, J. (1986): *Well-Being: Its Meaning, Measurement and Moral Importance*, Oxford: Clarendon Press.
- Griffin, J. (1996): *Value Judgement: Improving our Ethical Beliefs*, Oxford: Clarendon Press.
- Hammond, P. J. (1976): "Equity, Arrow's Conditions, and Rawls' Difference Principle", *Econometrica*, Vol.44, pp.793-804.
- Hammond, P. J. (1987): "Social Choice: the Science of the Impossible?" in Feiwel, G. R., ed., *Arrow and the Foundations of the Theory of Economic Policy*, London: Macmillan, pp.116-131.
- Harsanyi, J. C. (1955): "Cardinal Welfare, Individualistic Ethics, and Interpersonal Comparisons of Utility", *Journal of Political Economy*, Vol.63, pp.309-321.
- Harsanyi, J. C. (1977): *Rational Behavior and Bargaining Equilibrium in Games and Social*

- Situations*, New York: Cambridge University Press.
- Hayek, F. A. Von (1948): *Individualism and Economic Order*, Chicago; The University of Chicago Press.
- Hayek, F. A. von (1960): *The Constitution of Liberty*, London: Routledge & Kegan Paul (気賀健三・古賀勝次郎訳『自由の条件 I ―自由の価値』春秋社、ハイエク全集 5、1987年；同『自由の条件 II ―自由と法』春秋社、ハイエク全集 6、1987年；同『自由の条件 III ―福祉国家における自由』春秋社、ハイエク全集 7、1988年)。
- Hayek, F. A. von (1973): *Rules and Order*, Vol.1 of *Law, Legislation and Liberty: A New Statement of the Liberal Principles of Justice and Political Economy*, Chicago: University of Chicago Press (矢島鈞次・水吉俊彦訳『法と立法と自由 I ―ルールと秩序』春秋社、ハイエク全集 8、1987年)。
- Henry, C. (1989): *Microeconomics for Public Policy: Helping the Invisible Hand*, Oxford: Clarendon Press.
- Hicks, J. R. (1939): "The Foundations of Welfare Economics", *Economic Journal*, Vol.49, pp.696-712.
- Hicks, J. R. (1940): "The Valuation of the Social Income", *Economica*, Vol.7, pp.105-24.
- Hicks, J. R. (1975): "The Scope and Status of Welfare Economics", *Oxford Economic Papers*, Vol.27, pp.307-326.
- Hicks, J. R. (1981): *Wealth and Welfare*, Oxford: Basil Blackwell.
- Inada, K. (1969): "The Simple Majority Decision Rule", *Econometrica*, Vol.37, pp.490-506.
- Itoh, M., K. Kiyono, M. Okuno-Fujiwara and K. Suzumura (1991): *Economic Analysis of Industrial Policy*, San Diego: Academic Press.
- Kaldor, N. (1939): "Welfare Propositions in Economics and Interpersonal Comparisons of Utility", *Economic Journal*, Vol.49, pp.549-52.
- Kelly, J. S. (1987): "An Interview with Kenneth J. Arrow", *Social Choice and Welfare*, Vol.4, pp.43-62.
- Kolm, S.-Ch. (1972): *Justice et Equite*, Paris: Editions du Centre National de la Recherche Scientifique.
- Kolm, S.-Ch. (1996): *Modern Theories of Justice*, Cambridge, Mass.: The MIT Press.
- Kramer, G. H. (1973): "On a Class of Equilibrium Conditions for Majority Rule", *Econometrica*, Vol.41, pp.285-297.
- Laffont, J.-J. (1988): *Fundamentals of Public Economics*, Cambridge, Mass.: The MIT Press.
- Little, I. M. D. (1952): "Social Choice and Individual Values", *Journal of Political Economy*, Vol.60, pp.422-32.

- Little, I. M. D. (1950/1957): *A Critique of Welfare Economics*, Oxford University Press, 1st ed., 1950; 2nd ed., 1957.
- Little, I. M. D. (1999): *Collection and Recollections: Economic Papers and Their Provenance*, Oxford; Clarendon Press.
- Lyons, D. (1994): *Rights, Welfare, and Mill's Moral Theory*, Oxford: Oxford University Press.
- Margolis, J. and H. Guitton (1969): *Public Economics*, London: Macmillan.
- May, K. O. (1952): "A Set of Independent Necessary and Sufficient Conditions for Simple Majority Decision", *Econometrica*, Vol.20, pp.680-4.
- McLean, I. and F. Hewitt (1994): *Condorcet: Foundations of Social Choice and Political Theory*, Hants: Edward Elgar.
- Meade, J. E. (1964): *Efficiency, Equality and the Ownership of Property*, London: George Allen & Unwin.
- Meade, J. E. (1975): *The Intelligent Radical's Guide to Economic Policy: The Mixed Economy*, London: George Allen & Unwin (渡辺経彦『理性的急進主義者の経済政策——混合経済への提言——』岩波書店, 1977年)。
- Meade, J. E. (1976): *The Just Economy*, Vol.4 of a *Principles of Political Economy*, London: George Allen & Unwin.
- Mill, J. S. (1859): *On Liberty*, reprinted in M. Warnock, ed., *Utilitarianism*, London: Fontana, 1973 (早坂 忠訳『自由論』[関 嘉彦責任編集『ベンサム、J. S. ミル』(世界の名著 38)] 中央公論社、1967年)。
- Mill, J. S. (1861): *Utilitarianism*, reprinted in M. Warnock, ed., *Utilitarianism*, London: Fontana, 1973 (伊原吉之助訳『功利主義論』[関 嘉彦責任編集『ベンサム、J. S. ミル』(世界の名著 38)] 中央公論社、1967年)。
- Mishan, E. J. (1960): "A Survey of Welfare Economics, 1939-59", *Economic Journal*, Vol.70, pp.197-265.
- Mishan, E. J. (1981): *Introduction to Normative Economics*, New York: Oxford University Press.
- Morrow, G. R. (1923): *The Ethical and Economic Theories of Adam Smith*, New York: Longmans Green & Company, 1923; Reprinted in 1969 by New York: Augustus M. Kelley Publisher (鈴木信雄・市岡義章訳『アダム・スミスにおける倫理と経済』未来社、1992年)。
- Moulin, H. (1988): *Axioms of Cooperative Decision Making*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Ng, Y.-K. (1979/1983): *Welfare Economics: Introduction and Development of Basic*

Concepts, London: Macmillan.

- Nozick, R. (1974): *Anarchy, State and Utopia*, Oxford: Basil Blackwell (嶋津格訳『アナーキー・国家・ユートピア：国家の正当性とその限界』木鐸社、1985-89年).
- Nussbaum, M. (1988): "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution", *Oxford Studies in Ancient Philosophy*, Supplementary Volume, pp.145-184.
- Nussbaum, M. C. and A. K. Sen, eds. (1993): *The Quality of Life*, Oxford: Clarendon Press.
- Pareto, V. (1909): *Manuel d'Economie Politique*. Paris: Girard & Briere. English translation, *Manual of Political Economy*. London: Macmillan, 1971.
- Parfit, D. (1984): *Reasons and Persons*, Oxford: Clarendon Press (森村 進訳『理由と人格：非人格性の倫理へ』勁草書房、1998年).
- Pattanaik, P. K. (1971): *Voting and Collective Choice*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Pattanaik, P. K. (1994): "Rights and Freedom in Welfare Economics", *European Economic Review*, Vol.38, pp.731-738.
- Pattanaik, P. K. (1996): "On Modelling Individual Rights: Some Conceptual Issues", in Arrow, K. J., Sen, A. K. and K. Suzumura, eds., *Social Choice Re-examined*, London: Macmillan, pp.100-128.
- Pattanaik, P. K. and K. Suzumura (1994): "Rights, Welfarism and Social Choice", *American Economic Review: Papers and Proceedings*, Vol.84, pp.435-439.
- Pattanaik, P. K. and K. Suzumura (1996): "Individual Rights and Social Evaluation: A Conceptual Framework", *Oxford Economic Papers*, Vol.48, pp.194-212.
- Pattanaik, P. K. and Y. Xu (1990): "On Ranking Opportunity Sets in Terms of Freedom of Choice", *Recherches Economiques de Louvain*, Vol.56, pp.383-390.
- Pazner, E. and D. Schmeidler, (1974): "A Difficulty in the Concept of Fairness", *Review of Economic Studies*, Vol.41, pp.441-443.
- Pazner, E. and D. Schmeidler, (1978): "Egalitarian Equivalent Allocations: A New Concept of Economic Equity", *Quarterly Journal of Economics*, Vol.92, pp.671-687.
- Philips, L. (1995): *Competition Policy: A Game-Theoretic Perspective*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Pigou, A. C. (1920): *The Economics of Welfare*, London: Macmillan. Fourth ed., 1952 (永田 清・気賀健三訳『厚生経済学』全4冊、東洋経済新報社、1973-1975年).
- Plott, C. R. (1973): "Path Independence, Rationality, and Social Choice", *Econometrica*, Vol.41, pp.1075-1091.
- Rawls, J. (1958): "Justice as Fairness", *Philosophical Review*, Vol.67, pp.164-194. Reprinted in Freeman (1999, pp.47-72).

- Rawls, J. (1967): "Distributive Justice", in Laslett, P. and W. G. Runciman, eds., *Philosophy, Politics, and Society*, 3rd Series, Oxford: Blackwell, pp.58-82. Reprinted in Freeman (1999, pp.130-153).
- Rawls, J. (1968): "Distributive Justice: Some Addenda", *Natural Law Forum*, Vol.13, pp.51-71. Reprinted in Freeman (1999, pp.154-175).
- Rawls, J. (1971): *A Theory of Justice*, Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press. (矢島鈞次監訳『正義論』紀伊國屋書店、1979年)。
- Rawls, J. (1993): *Political Liberalism*, New York: Columbia University Press.
- Raz, J. (1992): "Rights and Individual Well-Being", *Ratio Juris*, Vol.5, pp.127-142.
- Robbins, L. (1935): *An Essay on the Nature and Significance of Economic Science*, 2nd ed., London: Macmillan (中山伊知郎監修、辻六兵衛訳『経済学の本質と意義』東洋経済新報社、1957年)。
- Robbins, L. (1961): "Hayek on Liberty", *Economica*, Vol.28, pp.66-81.
- Robbins, L. (1981): "Economics and Political Economy", *American Economic Review*, Vol.71, pp.1-10.
- Roberts, K. W. S. (1980a): "Possibility Theorems with Interpersonally Comparable Welfare Levels", *Review of Economic Studies*, Vol.47, pp.409-20.
- Roberts, K. W. S. (1980b): "Interpersonal Comparability and Social Choice Theory", *Review of Economic Studies*, Vol.47, pp.421-39.
- Roemer, J. E. (1996): *Theories of Distributive Justice*, Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press.
- Rothschild, E. (2001): *Economic Sentiments: Adam Smith, Condorcet, and the Enlightenment*, Cambridge, Mass.: Harvard University Press.
- Salanié, B. (2000): *Microeconomics of Market Failures*, Cambridge, Mass.: The MIT Press.
- Samuelson, P. A. (1947): *Foundations of Economic Analysis*, enlarged 2nd ed., Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press, 1983 (佐藤隆三 [初版] 訳『経済分析の基礎』勁草書房、1967年)。
- Samuelson, P. A. (1967): "Arrow's Mathematical Politics", in Hook, S., ed., *Human Values and Economic Policy*, New York: New York University Press, pp.41-51.
- Samuelson, P. A. (1981): "Bergsonian Welfare Economics", in Rosefield, S., ed., *Economic Welfare and the Economics of Soviet Socialism: Essays in Honor of Abram Bergson*, Cambridge, Massachusetts: Cambridge University Press, pp.223-266.
- Sandmo, A. (2000): *The Public Economics of the Environment*, Oxford: Oxford University Press.
- Schotter, A. (1985): *Free Market Economics: A Critical Appraisal*, New York: St. Martin's Press.

- Schumpeter, J. A. (1954): *History of Economic Analysis*, New York: Oxford University Press (東畑精一訳『経済分析の歴史』全7冊、1955-1962年)。
- Scitovsky, T. (1941): "A Note on Welfare Propositions in Economics", *Review of Economic Studies*, Vol.9, pp.77-88.
- Scitovsky, T. (1964): *Papers on Welfare and Growth*, London: George Allen & Unwin.
- Sen, A. K. (1966): "A Possibility Theorem on Majority Decisions", *Econometrica*, Vol.34, pp.491-499.
- Sen, A. K. (1969): "Quasi-Transitivity, Rational Choice and Collective Decisions", *Review of Economic Studies*, Vol.36, pp.381-393.
- Sen, A. K. (1970a): *Collective Choice and Social Welfare*, San Francisco: Holden-Day. Republished, Amsterdam: North-Holland, 1979 (志田基与師監訳『集合的選択と社会的厚生』勁草書房, 2000年)。
- Sen, A. K. (1970b): "The Impossibility of a Paretian Liberal", *Journal of Political Economy*, Vol.78, pp.152-157.
- Sen, A. K. (1973): "Behaviour and the Concept of Preference", *Economica*, N. S., Vol.40, pp.241-259.
- Sen, A. K. (1976a): "Liberty, Unanimity and Rights", *Economica*, N. S., Vol.43, pp.217-245.
- Sen, A. K. (1976b): "Poverty: An Ordinal Approach to Measurement", *Econometrica*, Vol.44, pp.219-231.
- Sen, A. K. (1977a): "Social Choice Theory: A Re-Examination", *Econometrica*, Vol.45, pp.53-89.
- Sen, A. K. (1977b): "On Weights and Measures: Informational Constraints in Social Welfare Analysis", *Econometrica*, Vol.45, pp.1539-1572.
- Sen, A. K. (1977c): "Rational Fools: A Critique of the Behavioural Foundations of Economic Theory", *Philosophy and Public Affairs*, Vol.6, pp.317-344.
- Sen, A. K. (1979a): "Utilitarianism and Welfarism", *Journal of Philosophy*, Vol.76, pp.463-489.
- Sen, A. K. (1979b): "Personal Utilities and Public Judgements: Or What's Wrong with Welfare Economics?", *Economic Journal*, Vol.89, pp.537-558.
- Sen, A. K. (1980): "Equality of What?", in McMurrin, S., ed., *The Tanner Lecture on Human Values*, Vol.1, Salt Lake City: University of Utah Press, pp.194-220.
- Sen, A. K. (1981): "Public Action and the Quality of Life in Developing Countries", *Oxford Bulletin of Economics and Statistics*, Vol.43, pp.287-319.
- Sen, A. K. (1982): *Choice, Welfare and Measurement*, Oxford: Basil Blackwell (大庭健・川本隆史抄訳『合理的な愚か者——経済学＝倫理学的探求——』勁草書房、

1989年).

- Sen, A. K. (1983): "Liberty and Social Choice", *Journal of Philosophy*, Vol.80, pp.5-28.
- Sen, A. K. (1984): *Resources, Values and Development*, Oxford: Basil Blackwell.
- Sen, A. K. (1985a): *Commodities and Capabilities*, Amsterdam: North-Holland (鈴木興太郎訳『福祉の経済学——財と潜在能力——』岩波書店、1988年).
- Sen, A. K. (1985b): "Well-being, Agency and Freedom: The Dewey Lectures 1984", *Journal of Philosophy*, Vol.82, pp.169-221.
- Sen, A. K. (1985c): "Rights and Capabilities", in Honderrich, T., ed., *Morality and Objectivity: A Tribute to J. L. Mackie*, London: Routledge & Kegan Paul, pp.130-148.
- Sen, A. K. (1986a): "Welfare Economics and the Real World", Acceptance Paper: The Frank E. Seidman Distinguished Award in Political Economy, Memphis, Tennessee: P. K. Seidman Foundation.
- Sen, A. K. (1986b): "Social Choice Theory", in Arrow, K. J. and M. Intrilligator, eds., *Handbook of Mathematical Economics*, Vol.III, Amsterdam: North-Holland, pp.1079-1181.
- Sen, A. K. (1987): *On Ethics and Economics*, Oxford: Basil Blackwell.
- Sen, A. K. (1988a): "Rights as Goals", in Guest, S. and A. Milen, eds., *Equality and Discrimination: Essays in Freedom and Justice*, Franz Steiner, pp.11-25,
- Sen, A. K. (1988b): "Freedom of Choice: Concept and Content", *European Economic Review*, Vol.32, pp.269-294.
- Sen, A. K. (1990a): "Individual Freedom as a Social Commitment", *The New York Review of Books*, June 14, pp.49-54 (川本隆史訳「社会的コミットメントとしての個人の自由」『みすず』358号、1991年1月号、pp.68-87) .
- Sen, A. K. (1990b): "Justice: Means versus Freedoms", *Philosophy and Public Affairs*, Vol.19, pp.111-121.
- Sen, A. K. (1991): "Welfare, Preference and Freedom", *Journal of Econometrics*, Vol.50, pp.15-29.
- Sen, A. K. (1992): "Minimal Liberty", *Economica*, N. S., Vol.59, pp.139-159.
- Sen, A. K. (1993a): "Markets and Freedoms: Achievements and Limitations of the Market Mechanism in Promoting Individual Freedoms", *Oxford Economic Papers*, Vol.45, pp.519-541.
- Sen, A. K. (1993b): "Capability and Well-Being", in Nussbaum, M. and A. K. Sen, eds., *The Quality of Life*, Oxford: Clarendon Press.
- Sen, A. K. (1994): "Markets and the Freedom to Choose", in Siebert, H., ed., *The Ethical Foundations of the Market Economy*, Tübingen: J. C. B. Mohr, pp.123-138.
- Sen, A. K. (1995a): "Rationality and Social Choice", *American Economic Review*, Vol.85,

pp.1-24.

- Sen, A. K. (1995b): "Demography and Welfare Economics", *Empirica*, Vol.22, pp.1-21.
- Sen, A. K. (1996): "Legal Rights and Moral Rights: Old Questions and New Problems", *Ratio Juris*, Vol.9, pp.153-167.
- Sen, A. K. (1997a): *On Economic Inequality*, Expanded edition with a substantial annexe by James E. Foster and Amartya K. Sen, Oxford: Clarendon Press (鈴木興太郎・須賀晃一訳『不平等の経済学』東洋経済新報社、2000年).
- Sen, A. K. (1997b): "Maximization and the Act of Choice", *Econometrica*, Vol.65, pp.745-779.
- Sen, A. K. (1999a): *Development as Freedom*, New York: Alfred A. Knopf (石塚雅彦訳『自由と経済開発』岩波書店、2000年).
- Sen, A. K. (1999b): "The Possibility of Social Choice", *American Economic Review*, Vol.89, pp.349-378.
- Sen, A. K. and P. K. Pattanaik (1969): "Necessary and Sufficient Conditions for Rational Choice under Majority Decision", *Journal of Economic Theory*, Vol.1, pp.178-202.
- Sen, A. K. and B. Williams, eds. (1982): *Utilitarianism and Beyond*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Smart, J. J. C. and B. Williams (1973): *Utilitarianism: For and Against*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Smith, A. (1959): *The Theory of Moral Sentiments*. London:printed for A. Millar, in the Strand, and A. Kincaid and J. Bell, in Edinburgh. Reprinted 1969: New Rochelle, N.Y.:Arlington House (水田 洋訳『道德感情論』筑摩書房、1973年).
- Solow, R. M. (1987): "James Meade at Eighty", *Economic Journal*, Vol.97, pp.986-988.
- Stiglitz, J. E. (1994): *Whither Socialism?* Cambridge, Mass.: The MIT Press.
- Sugden, R. (1985): "Liberty, Preference, and Choice", *Economics and Philosophy*, Vol.1, pp.213- 229.
- Sugden, R. (1986): *The Economics of Rights, Co-operation and Welfare*, Oxford: Basil Blackwell.
- Sugden, R. (1989): "Spontaneous Order", *Journal of Economic Perspectives*, Vol.3, pp.85-97.
- Suppes, P. (1966): "Some Formal Models of Grading Principle", *Synthese*, Vol.6, pp.284-306.
- Suzumura, K. (1978): "On the Consistency of Libertarian Claims", *Review of Economic Studies*, Vol.45, pp.329-42. "A Correction", *Review of Economic Studies*, Vol.46, p.743.
- Suzumura, K. (1980): "Liberal Paradox and the Voluntary Exchange of Rights Exercising",

- Journal of Economic Theory*, Vol.22, pp.407-22.
- Suzumura, K. (1982): "Equity, Efficiency and Rights in Social Choice", *Mathematical Social Sciences*, Vol.3, pp.131-55.
- Suzumura, K. (1983): *Rational Choice, Collective Decisions and Social Welfare*, New York: Cambridge University Press.
- Suzumura, K. (1987): "Social Welfare Function", in Eatwell, J., Milgate, M. and P. Newman, eds., *The New Palgrave: A Dictionary of Economics*, Vol.4, London: Macmillan, 1987, pp.418-420.
- Suzumura, K. (1990): "Alternative Approaches to Libertarian Rights in the Theory of Social Choice", in Arrow, K. J., ed., *Markets and Welfare. Issues in Contemporary Economics*, Vol.1, London: Macmillan, pp.215-242.
- Suzumura, K. (1991): "On the Voluntary Exchange of Libertarian Rights", *Social Choice and Welfare*, Vol.8, pp.199-206.
- Suzumura, K. (1995): *Competition, Commitment, and Welfare*, Oxford: Clarendon Press.
- Suzumura, K. (1996): "Welfare, Rights, and Social Choice Procedure: A Perspective", *Analyse & Kritik*, Vol.18, pp.20-37.
- Suzumura, K. (1999a): "Consequences, Opportunities, and Procedures", *Social Choice and Welfare*, Vol.16, pp.17-40.
- Suzumura, K. (1999b): "Paretian Welfare Judgements and Bergsonian Social Choice", *Economic Journal*, Vol.109, pp.204-220.
- Suzumura, K. (2000): "Welfare Economics Beyond Welfarist-Consequentialism", *Japanese Economic Review*, Vol.51, pp.1-32.
- Suzumura, K. (2002): "Introduction", in Arrow, K. J., A. K. Sen and K. Suzumura (2002), pp.1-32.
- Suzumura, K. and Y. Xu (2001): "Characterizations of Consequentialism and Non-Consequentialism". Forthcoming in *Journal of Economic Theory*.
- Thomson, W. and H. R. Varian (1985): "Theories of Justice Based on Symmetry", in Hurwicz, L., Schmeidler, D. and H. Sonnenschein, eds., *Social Goals and Social Organization: Essay in Memory of Elisha Pazner*, Cambridge: Cambridge University Press, pp.107-129.
- Varian, H. R. (1974): "Equity, Envy and Efficiency", *Journal of Economic Theory*, Vol.9, pp.61-91.
- Varian, H. R. (1975): "Distributive Justice, Welfare Economics, and the Theory of Fairness", *Philosophy and Public Affairs*, Vol.4, pp.223-247.
- Williams, B. (1985): *Ethics and Limits of Philosophy*, London: Fontana.

後藤玲子 (1996): 「ロールズ正義論における多元的民主主義の構想——センの2つの

- 『自由』概念との比較分析——『一橋論叢』第115巻第6号、pp.86-102。
- 川又邦雄 (1991): 『市場機構と経済厚生』創文社。
- 川本隆史 (1995): 『現代倫理学の冒険——社会理論のネットワークングへ——』創文社。
- 川本隆史 (1997): 『ロールズ——正義の原理』講談社。
- 熊谷尚夫 (1957): 『厚生経済学の基礎理論』東洋経済新報社。
- 熊谷尚夫 (1978): 『厚生経済学』創文社。
- 根岸 隆 (1963): 『価格と配分の理論』東洋経済新報社。
- 岡 敏弘 (1997): 『厚生経済学と環境政策』岩波書店。
- 奥野正寛・鈴木興太郎 (1985/1988): 『ミクロ経済学』(全2巻) 岩波書店。
- 佐伯 胖 (1980): 『「きめ方」の論理——社会的決定理論への招待——』東京大学出版会。
- 嶋津 格 (1985): 『自生的秩序——ハイエクの法理論とその基礎』木鐸社。
- 清水幾太郎 (1972): 『倫理学ノート』岩波書店。
- 塩野谷祐一 (1984): 『価値理念の構造——効用対権利——』東洋経済新報社。
- 鈴木興太郎 (1982): 『経済計画理論』筑摩書房。
- 鈴木興太郎 (1992): 「厚生と権利——《社会的選択論》からのアプローチ——」『経済研究』第43巻第1号、pp.39-55。
- 鈴木興太郎 (1993): 「競争・規制・自由」伊丹敬之・加護野忠男・伊藤元重編『企業と市場』[リーディングス【日本の企業システム】第4巻] 有斐閣、pp.122-145。
- 鈴木興太郎 (1996): 「厚生・権利・社会的選択」『経済研究』第47巻第1号、1996年1月号、pp.64-79。
- 鈴木興太郎 (1998a): 「貿易政策・措置の《公平性》とGATT/WTO整合性」『貿易と関税』pp.78-88。
- 鈴木興太郎 (1998b): 「機能・福祉・潜在能力——センの規範的経済学の基礎概念」『経済研究』第49巻第3号、1998年7月号、pp.193-203。
- 鈴木興太郎 (2000): 「厚生主義的帰結主義・選択の内在的価値・手続き的衡平性」岡田 章・神谷和也・黒田昌裕・伴 金美 (編) 『現代経済学の潮流』pp.3-42。